

平成 30 年度第 3 回横浜市創造界限形成推進委員会 議事録	
日 時	平成 31 年 3 月 22 日 (金) 14:00~16:30
開催場所	YCC ヨコハマ創造都市センター 3階スペース
出席者 (敬称略)	<p>■委員</p> <p>野原卓 (横浜国立大学大学院 准教授) <委員長> 六川勝仁 (馬車道商店街協同組合 理事長) <副委員長> 遠藤新 (工学院大学建築学部 教授) 岡本純子 (公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・オフィサー) 菅野幸子 (アーツ・プランナー/リサーチャー) 重松久恵 (ブランド・マネジメント・コンサルタント) 簗谷則美 (株式会社ミノヤアソシエイツ 代表取締役) 山口真樹子 (国際交流基金アジアセンター 舞台芸術コーディネーター)</p> <p>■オブザーバー</p> <p>恵良隆二 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 専務理事)</p> <p>■事務局 (説明者等)</p> <p>清水克彦 (文化芸術創造都市推進部長) 工藤裕二 (創造都市推進課担当課長) 河本一満 (創造都市推進課創造まちづくり担当課長) 神部浩 (文化プログラム推進部長) 松元公良 (文化プログラム推進課長) 高田聡 (創造都市推進課担当係長) 田中裕記 (創造都市推進課担当係長) 平原雄 (創造都市推進課担当係長) 安藤亜矢 (創造都市推進課創造まちづくり担当係長) 安藤準也 (創造都市推進課創造まちづくり担当係長)</p>
欠席者	日沼禎子 (女子美術大学芸術学部 教授)
開催形態	議題 1、2 公開 (傍聴者 0 名) / 議題 3~5 非公開
議 題	1 平成 31 年度事業計画及び事業評価基準について 2 平成 31 年度文化観光局予算概要について 3 創造的イルミネーション事業について 4 平成 32 年度旧第一銀行横浜支店の活用方針について 5 象の鼻テラスの運営団体選考のスケジュールについて
決定事項	
	事務局 【開会】 ○定刻となりましたので、平成 30 年度第 3 回横浜市創造界限形成推進委員会をはじめさせていただきます。 ○開会にあたりまして、新たに文化芸術創造発信拠点形成事業の実施事業者となりました NPO 法人 BankART1929 代表の池田様より、一言ご挨拶をいただきます。

議 題 1	池田代表	<NPO 法人 BankART1929 代表 池田修様から挨拶が行われた。>
	事務局	○ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。池田代表はここでご退席となります。本日はありがとうございました。 <池田代表 退席>
	事務局	【配布資料の確認】 ○全 9 種類の配付資料を確認。
	事務局	【定足数の確認】 ○委員 9 名中 8 名が出席であるので、委員会運営要綱第 7 条第 3 項により委員会の成立となる。
	事務局	【本会議・議事録の公開・非公開の決定】 ○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条により原則公開となるが、議題 3 から議題 5 については、同条例第 7 条第 2 項第 5 号及び第 6 号の非開示情報にあたるため非公開とするがよろしいか。 →全員、了承。
	事務局	○それでは、野原委員長に議事進行をお願いする。
	野原委員長	【前回の議事録の確認について】 ○前回の議事録であるが、既に委員には確認いただいていると思う。何かあればご報告いただきたい。
	野原委員長	1 平成 31 年度事業計画及び事業評価基準について ○それでは最初に議題 1 に入る。事務局から説明を願ひたい。
	田中係長	<平成 31 年度事業計画及び事業評価基準について、資料 1 を使用して、説明が行われた。>
	野原委員長	[補足説明] ○1 点補足する。本日は年度末の委員会であるが、これまでは今年度の課題が出ぬまま来年度の事業の話をする事となっていた。今年は右側に今年度の進捗までを記していただいた。これでもまだ来年度に向けての課題の記載までには至っていないので、各分科会の議長から、見えてきている課題があればそれも併せて補足説明を願ひたい。 <YCC ヨコハマ創造都市センター>
六川議長	○人気グループのプロモーションビデオを撮影した関係で、ファンの間でここが聖地化した。「カフェオムニバス」事業が全体の運営にも好影響を及	

	野原委員長	<p>ぼした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○馬車道等の地元とのコラボレーションも比較的うまくできている。十和田湖の郷土芸能とのつながりをつくる「ウマジン」も31年度に展開予定。 ○運営面では頑張ってもらっていた。 ○31年度は天井の改修工事に伴い1か月ほどの休館となる。 <p><THE BAYS (旧関東財務局)></p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年目となり少しずつ回転し始めた。クリエイティブ・スポーツラボ等それなりに充実した活動が繰り広げられている。 ○それぞれの活動はあるが、それが建物全体で一つのプロジェクトとして一体化することがかねがねの課題であった。来年度は「パスポートの発行」という施策が予定されているが、こうした課題に対しての一つの試みである。 ○1年では解消していない問題も多々ある。例えば入りづらさの解消、といったことである。引き続きトライし続けていく必要がある。 ○官民連携を具体的に進めていくことについても評価軸に加えた。これも課題である。
	山口議長	<p><急な坂スタジオ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○スタジオの稼働率は上がっている。特に1月～3月の公募は例年の3倍であったと聞く。殆どは劇場などの主催公演の稽古場としての活用、即ち有料での使用が増えているという報告があった。 ○拠点としての事業をどう展開していくかが課題となる。4月に「急な坂食堂」をオープンし、担当職員を1名雇用した。周辺地域の居住者や働いている方々からの新たな来館者獲得に結びついている。食堂を使っただけのイベントも既に始めている。 ○「サポーターアーティスト」を久しぶりに公募した。60名ほどの応募があり、3名が選ばれた。それぞれ30代以上のキャリアのある人材である。 ○一方で、「相談室Plus」事業には比較的若いアーティストが参加している。その中で、最近の俳優の持つニーズに応えている。 ○F/T等との連携企画も展開している。 ○稽古以外の来訪者を開拓するために「Steep Slope Showcase」といった事業を検討している。
	菅野議長	<p><象の鼻テラス></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的に市民向けあるいは横浜を訪れる方々向けの無料の休憩所で、観光ボランティアの方々にも関わってもらっている。 ○そうした中で特色ある様々な文化イベントを実施。全体的には大変頑張ってもらっており、分科会委員からは高い評価を得ている。 ○今年度は来場者へのアンケートをとった所、90%以上が好印象との回答だった。施設利用が中心のアンケートであったので、文化イベントについても聞くことを今後の検討としている。 ○来年度、開館10周年を迎える一方で、新規委託業者を公募する年でもあ

	<p>きていない地区であり、市としても一緒になって関係が作れるよう努力していきたいとの話を事務局からもいただいている。</p> <p>〔質疑〕</p>
岡本委員	○事業評価軸の中で THE BAYS と象の鼻に経営評価がないのは何故か。
田中係長	○委託している施設については、その点を除いての評価としている。他の4施設とは契約のあり方に違いがあるということである。
野原委員長	○賃料をとっている施設については、収支の中ではそうした項目も記されているようである。
	○数年前までは各拠点ともに経営に課題があるということで、総じて基盤づくりに重点が置かれていたが、本日の話ではそのあたりは改善傾向にあるように感じた。その分、本筋的な課題が出てきている中で実施事業を考えている印象を受けた。
恵良委員	○BankART は改めてリスタートであり、そこは様子を見ながら行きたい。
	○個々の報告とは直接的関連ではないが、長く創造都市政策をやられてきた中で、人とか街とか社会に対しての「全体的な効果」についてといった視点から考えていくことが、どこかで議論されたり、意識されると良い。
清水部長	○そろそろ色々な課題が見えてきている所にあると思う。そうした課題を吸い上げて、次のステップにつなげて行かねばならないと感じている。
野原委員長	○「界限」がどうできているかも大事な視点であると常々言ってきた。政策上の意味合いとしては、拠点があるだけではなく、このプロジェクトが「創造界限」をどう作られていくかを評価したい。事業者向けの評価をするこのフォーマットの中では書き込みにくいですが、別枠でそうした議論ができればと思う。
遠藤委員	○初黄・日ノ出町は、元々、まちづくりと文化創造の2本立てで始まった。但し、まちづくりを頑張りすぎると経営を圧迫するのでは、という議論が繰り返されてきた。文化観光局の事業計画に書かれていないことをどこまでやるのか、そこをスリムアップすべきという議論は必ず出てくる。一方で、まちづくりはミッションとしてはやらねばならないが、明文化しきれない所もあるので、毎年論点出しをして、事業者と共有していくことが大事であると感じている。
菅野委員	○恵良委員が仰ることは、事業が社会に対してどのような波及効果を持っているのか、社会的インパクト評価という考え方なのだと思う。色々なプロジェクトを評価するとき、社会全体にどのように貢献してきているかということは、全世界的に注目されている視点である。評価項目の中に政策達成評価があるが、その部分でこうしたことを考えても良い。創造性達成評価と並んで評価すべきものではないとも思う。
	○資料2：平成31年度予算概要の中の「基盤となる5つの柱」の実現に、どれだけ効果的であるかという視点で評価しても良いと思う。そうした評価基準も今後検討していただきたい。

議 題 2	清水部長	○事務局としてもそうした課題は認識している。皆さんから意見を伺い、拠点毎の評価にとどまらず創造都市施策全体をどうしていくのか、という議論をする場を次年度以降に設けていくよう検討していきたい。その節には是非ご協力願いたい。
	野原委員長	○創造性評価と政策達成評価を分けて、といったご意見もあったので、フォーマットも含めてご検討いただければと思う。
	重松委員	○広報や情報発信にどの拠点も課題がありそうだ。基本的に拠点の方々だけでは発信力は弱い。市広報課との連携は今後どのように強化していくつもりか知りたい。
	河本課長	○まず市民から見てどう見えるのか、という視点が重要と思う。界限拠点独自の発信には限界もある。6拠点をまとめたの発信もしていきたい。企業や文化振興財団とネットワークを組みながらやっていく意義はそうした所にもあると思っている。広報課とのチャンネルも、あらゆる機会を使っていきたい。我々が持つ色々な媒体を使い、横浜ならではの「尖った文化の発信」を常日頃から心がけながらしていきたい。
	野原委員長	○以前、今と全く同じ議論をした記憶がある。具体的に動いていただきたい。
	恵良委員	○横浜市芸術文化振興財団ではネット上で「創造都市横浜」という記事を発信してきている。その中で創造界限を時々取り上げて発信している。編集の仕方によっては、創造界限拠点といった取り上げ方もあると思う。創造界限で今までやってきた事実は誰も真似できないものなので、それを皆さんの目に見える形にする方法もある。
	野原委員長	○平成 29 年度の課題という欄に書かれていることには、オペレーション上のものと事業内容に関するものがあるが、オペレーション上のものには共通するものが多そうである。それを抽出して、サポートできないかといった話などは以前にもあった。広報もその中に含まれるものと思う。個々の事業を越えたサポートについても検討願いたい。
		○これをもって、平成 31 年度事業計画及び事業評価基準は確定とする。次年度はこの計画、評価基準に基づき、事業実施及び事業評価を進めていただきたい。
		2 平成 31 年度 31 年度文化観光局予算概要について
	野原委員長	○それでは次の議題に移る。事務局から説明を願いたい。
田中係長	<平成 31 年度文化観光局予算概要について、資料 2 を使用して、説明が行われた。> 〔質疑〕	
六川委員	○創造的イルミネーション事業について、継続性をどのように考えているか。	
田中係長	○議題 3 の中で、その辺りのことも説明する。	

	遠藤委員	○情報発信に関する予算はどこに含まれているのか。予算的規模感も知りたい。
	河本課長	○資料2の p18、(1) 創造界限形成事業と(3) アーツコミッション事業の中、特に横浜市芸術文化振興財団にお願いしているアーツコミッション事業の中に情報発信事業を見込んでいる。創造界限形成事業の中にもパンフレットを作るといった事業費を見込んでいる。 ○横浜市芸術文化振興財団への補助金約4,200万円の内、プロモーション関連としては300万円強がついている。
	恵良委員	○直接的予算は減ってきているが、その中で、情報発信の仕方、ツールを今、見直している。事業に合わせた発信や、テレビ局等の取材を多く取るなど質的な発信強化を合わせてやろうとしている。フェイストゥフェイスのアプローチもやる。
	重松委員	○発信者として誰がやるのが重要である。担当者をガッチリつけて、その人を見る人をちゃんとつけてほしい。
	恵良委員	○財団ではACYを通じた広報担当を明確にしている。担当者は色々なメディア系に常にアプローチをしている。そうした体制は見えてきているかと思う。
	野原委員長	○議論をどう反映したら良いか、いつも迷ってしまう。政策が何を目標にしているのかの整理がないと、それに対する事業に対しての意見がしにくい。何故、この事業の中でやるのが良いのか説明いただかないと、政策大系と具体的予算の関係が見えづらい。 ○次回以降で良いので、創造都市政策としてどこに力を入れようとしているのか、個々の事業の項目と政策として目標としていることの整理を願いたい。 ○他にご質問、ご意見などがなければ、以上で議題2を終了する。
議 題 3		3 創造的イルミネーション事業について / 4 平成32年度旧第一銀行横浜支店の活用方針について ＜創造的イルミネーション事業について、資料3を使用して、その概要説明が行われた。＞ ＜平成32年度旧第一銀行横浜支店の活用方針について、資料4を使用して、その概要説明が行われた。＞
議 題 4		
議 題 5		5 象の鼻テラスの運営団体選考のスケジュールについて ＜象の鼻テラスの運営団体選考のスケジュールについて、資料5を使用して、説明が行われた。＞
そ の 他	事務局	【連絡事項】 ○本日の議事録については、3月下旬～4月初旬頃に各委員に送付し、確認いただくので、ご協力をお願いしたい。

	事務局	<p>○次回の委員会は6月下旬～7月に開催を予定する。なお、次年度は4回開催を予定している。各分科会は、平成30年度事業評価を主な議題として、5月頃から順次開催する予定である。時期が近づいたら、各担当から日程調整をさせていただく。</p> <p>○次年度は委員改選の年となる。別途調整させていただく。</p> <p>【開会】</p> <p>○これをもって平成30年度第3回横浜市創造界限形成推進委員会を終了する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
資 料	<p>① 次第</p> <p>② 席次</p> <p>③ 委員会名簿</p> <p>④ 前回委員会議事録（平成30年11月19日開催分）</p> <p>⑤ 資料1：平成31年度事業計画及び事業評価基準</p> <p>⑥ 資料2：平成31年度文化観光局予算概要</p> <p>⑦ 資料3：創造的イルミネーション事業について</p> <p>⑧ 資料4：平成32年度旧第一銀行横浜支店の活用方針について</p> <p>⑨ 資料5：象の鼻テラスの運営団体選考のスケジュールについて</p>	
特記事項	<p>本日の議事録については、3月下旬～4月初旬ごろに各委員に送付し、確認して頂く。</p>	